

製品名: Rad51D ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16846**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	RAD51D
別名	RAD51D; RAD51L3; DNA repair protein RAD51 homolog 4; R51H3; RAD51 homolog D; RAD51-like protein 3; TRAD
遺伝子 ID	5892.0
SwissProt ID	O75771
免疫原	抗血清はヒト RAD51L3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

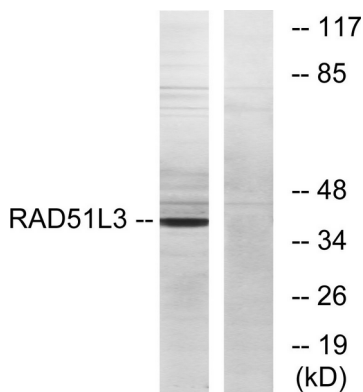
RAD51 パラログ D(RAD51D) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RAD51 タンパク質ファミリーのメン

バーです。RAD51 ファミリーのメンバーは、DNA の相同組換えと修復に関与することが知られている細菌の RecA や *Saccharomyces cerevisiae* Rad51 と非常に類似しています。このタンパク質は、RAD51L1、RAD51L2、XRCC2 など、RAD51 ファミリーの他のいくつかのメンバーと複合体を形成します。このタンパク質と形成されるタンパク質複合体は、一本鎖 DNA と二本鎖 DNA 間の相同対合を触媒することが示されており、DNA の組換え修復の初期段階で役割を果たすと考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。また、この遺伝子と下流のリングフィンガーおよび FYVE 様ドメイン含有 1 (RFFL) 遺伝子との間にもリードスルー転写が存在します。[RefSeq 提供、2011 年 1 月]機能: DNA 複製中に生じる、または DNA 損傷因子によって誘発される二本鎖 DNA 切断の相同組換え修復 (HRR) 経路に関与する。BCDX2 複合体は、一本鎖 DNA、二本鎖 DNA 中の一本鎖ギャップ、そして特に二本鎖 DNA の切断部に結合します。類似性: recA ファミリーに属します。RAD51 サブファミリーに属します。サブユニット: RAD51B、RAD51C、RAD51D、および XRCC2 からなる BCDX2 複合体の一部です。RAD51B、RAD51C、RAD51D、XRCC2、および XRCC3 からなる複合体の一部です。ZSWIM7 と相互作用します。組織特異性: 結腸、前立腺、脾臓、精巣、卵巣、胸腺、小腸で発現します。白血球で弱く発現している。

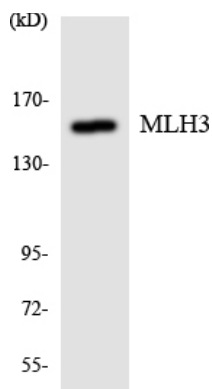
研究分野

相同組換え;

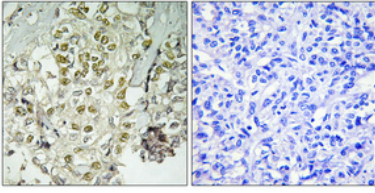
画像データ



RAD51L3 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MLH3 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。